

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671100115
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	もうひとつの私の家 なでしこ
訪問調査日	平成21年3月30日
評価確定日	平成21年4月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671100115
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	もうひとつの私の家 なでしこ
所在地	南さつま市加世田村原 1丁目9番地6号 (電話) 0993-53-8885
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年3月30日

## 【情報提供票より】(平成21年3月5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成9年10月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤	13人, 非常勤 12人, 常勤換算 19.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

## (4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	27 名	男性	0 名	女性	27 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	77 歳	最高	101 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	アルテンハイムクリニック 南さつま中央クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「福祉文化の創造」を法人の基本理念とし、入居者の方々が、地域の中で尊厳を保ちながら生き生きと暮らし続けられるように、日々取り組んでいるホームである。同一法人の特別養護老人ホームやクリニック、老人保健施設等によるサポートとともに、「ヒーリングガーデン(癒しの庭)」や「シルバーパーク(介護予防のための運動公園)」、「サテライトデイホーム」等、入居者の生活を支える関連施設も充実している。法人内外の各種研修への参加をはじめ、各分野のオーソリティによる研修会が計画的に行われるなど、職員の資質向上には特に力を注いでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「食事を楽しむことのできる支援」において、職員が入居者と同じ食事を摂りながら支援することについては、毎食同じ食事を摂ることは現状では困難ではあるが、入居者に寄り添い、必要に応じて食事介助を行いながらともに食事を楽しむ工夫がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については管理者をはじめ職員が十分に理解しており、評価結果を受けて、全員が参加する定例会で改善に向けた話し合いを行っている。項目によっては年度目標として取り上げ、定着化に向けてさらに具体的な取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、利用者の状況やホームの活動、評価結果等について報告を行い、ご家族をはじめ地域の代表や行政担当者から意見をいただいている。リビングのテレビの位置を変えたり菜園での芋掘り会の実施など、会議での意見や提案をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口について重要事項説明書に明示しており、第三者委員を交えた家族会や運営推進会議を定期的で開催している。さらに定期的なアンケートを実施するなど、ご家族が意見や不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けている。このことにより、多くの意見や要望が出されて運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会に加入しており、回覧板のやり取りや地域清掃への参加といった日常的な関わりをはじめ、ご家族の協力を得ての行事参加もを行っている。また、法人内の事業所と連携しながら、夕涼み会等を開催するなどして地域の方々との交流に努めている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の中で、地域における必要な福祉サービスへの取り組みを盛り込んでいる。ホームとしては、年度毎の重点目標と方針に、地域密着型サービスとしての項目を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度テーマ、重点目標および方針を、職員全員で話し合い決定している。定期的に勉強会や会議を開き、目標の達成状況等について話し合うなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入しており、回覧板のやり取りや地域清掃への参加といった日常的な関わりをはじめ、ご家族の協力を得ての行事参加も行っている。また、法人内の事業所と連携しながら、夕涼み会等を開催するなどして地域の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については管理者をはじめ職員が十分に理解しており、評価結果を受けて、全員が参加する定例会で改善に向けた話し合いを行っている。項目によっては年度目標として取り上げ、定着化に向けてさらに具体的な取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、利用者の状況やホームの活動、評価結果等について報告を行い、ご家族をはじめ地域の代表や行政担当者から意見をいただいている。リビングのテレビの位置を変えたり菜園での芋掘り会の実施など、会議での意見や提案をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携については、運営推進会議への参加を含め、地域密着型サービスに移行後は、さらに行き来する機会を設けて協力関係を深めており、ともにサービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動は、ご家族の訪問時や電話、広報誌(年4回発行)、職員紹介用のアルバム等を使い定期的且つ必要に応じて随時報告している。金銭については出納帳により管理しているが、金額が少額なこともあり定期的な報告は行っておらず、ご家族からの入金の際、確認していただいている。		金銭管理については、後日のトラブルを未然に防ぐ意味合いからも、請求書や広報誌の送付等に合わせ、書面による定期的な報告の仕組みを検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口について重要事項説明書に明示しており、第三者委員を交えた家族会や運営推進会議を定期的に開催している。さらに定期的なアンケートを実施するなど、ご家族が意見や不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けている。このことにより、多くの意見や要望が出されて運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に関しては、ダメージを防ぐ意味からも敢えて入居者への説明は行っていない。法人内の異動に関しては、必要最小限に抑えるよう配慮している。しかし、定着率は低く、馴染みの職員によるサービス提供が安定して提供されているとは言い難い。	○	退職に至る経緯等を検証することで、入居者がより多くの馴染みの職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える取り組みが望まれる。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画の中で、年間研修計画を策定しており、職員研修規定には階層別の主要な研修課題等が明示されている。等級毎の職務基準書や自己評価を含む人事考課表等を活用し、職員の能力に応じた計画的な育成を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国・県・地区の各連絡協議会に加入しており、ネットワークづくりや勉強会に参加している。また、県の認知症研修実習施設に指定されており、各階層での交流機会を通して職員の資質向上とともにサービスの質向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に理事長が本人、ご家族と面談して、法人およびホームの方針を説明しており、十分に納得していただいた上で入居に至っている。また、面談や医療機関からの情報提供等により、本人の生活歴や知人の有無、出身地や共通の地域等を考慮してユニットや居室を選択するなど、本人が安心して暮らし続けることができるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	来訪者へのお茶の接待や食事の準備、活け花や電話対応など、本人の自宅と同じような暮らしぶりである。若い職員には礼儀作法や活け花を教えたり、戦時中の話や歌を聞かせて昔のことを回想しながら、支え合って暮らしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人共通のフェイスシートを使い、本人やご家族からのヒアリングを中心に徹底したアセスメントを実施することで、生活歴や好みのライフスタイルなど、それぞれの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。アセスメントの結果によっては、入居後もユニットの異動を行うなど、本人本位に適切な支援を実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの結果に加え、本人およびご家族も参加する担当者会議において話し合いを重ね、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。具体的な課題毎に支援経過が記録できるように様式を工夫しており、日々介護計画を意識した支援を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題毎の期間に応じた見直しを行うとともに、3ヵ月毎のモニタリングや6ヵ月毎のカンファレンスにより介護計画の見直しを行っている。状態変化時には随時、本人およびご家族、かかりつけ医等の必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別養護老人ホームを中心に各種の介護サービス事業を整備しており、法人として統一した理念の下で状況に応じた支援を行っている。法人内には多くの専門知識や資格を持つ職員がおり、医療面での連携をはじめとして、これらの人材を活かした柔軟で多機能的な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望を尊重し、これまでのかかりつけ医との関係を継続できるように支援している。また、かかりつけ医を持たない方や遠方から入居された方に関しては、協力医療機関等と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期医療については、法人内のクリニックや特別養護老人ホームと連携しながら対応している。入居時には、「看取り介護についての希望確認書」により説明と確認を行っている。入居後も状況によって話し合いを行い、「看取り介護についての同意書」を活用しながら、職員を含めた関係者全員で方針を共有している。看取りを行う場合は、専用のケアプランを作成した上で、本人やご家族の意向に沿った支援を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への対応や姿勢、基礎的な知識等を記入したケア基準書を作成しており、入職時および毎年の研修計画に盛り込み徹底した教育を行うなど、誇りやプライバシーへの配慮に努めている。また、法人として個人情報保護規定を作成し、記録等の個人情報について適切な管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのペースに合わせ、ゆっくり待つことを基本として支援している。その人らしい生活を支援するために、本人およびご家族と話し合い、それぞれの希望を聞きだしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのメニューを聞いたり、嫌いな食材や料理の場合は別の料理で対応するなどの配慮をしている。食材選びに入居者と一緒に出かけたり、郷土料理や季節のものを意識して使用するなど、食事を楽しむための支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は特に決めておらず、毎日希望する時間に楽しむことが可能である。入浴拒否のある方に対しては、入浴チェック表を見せたりご家族の意向を伝えるなど工夫しながら、状況に応じて声かけを行い支援している		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、生活歴や趣味を把握した上で、来訪者へのお茶の接待や活け花、料理、ドライブや買い物、ふるさと訪問等、役割や楽しみごとの支援を行っている。ツールとして、「脳いきいきリハビリメニュー」を活用している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や散歩、ドライブに加えて、「ヒーリングガーデン」や「シルバーパーク」、「サテライトデイホーム」などの資源を整備し、ホームの中だけで過ごすことなく日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、玄関に施錠する以外は常に開放している。法人として「抑制・拘束しない介護」に永年取り組んでおり、研修体制も確立している。また、近接の関連施設をはじめ、警察や周辺住民にも万一の場合の協力をお願いして、鍵をかけないケアの実践に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間・夜間等、様々な状況を想定した防災訓練を定期的実施している。他県の火災事故例を教訓に、運営推進会議やミーティング等で積極的に話し合いの機会を持ち、自治会と協定書を結び協力を依頼するなど、地域と一体となった取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「日常生活習慣記録表」に食事や水分の摂取量を記録し、必要量が確保できるように支援している。また、法人内の管理栄養士に献立内容をチェックしてもらい、日頃の栄養バランスや特別食に関するアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階の入り口には常に野の花を飾り、共用空間には季節を感じさせる飾り付けを行っている。リビングとキッチンの間には遮るものが無く、食事の準備などに自然に参加できるような配慮もなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで準備しているベッドや箆笥は、懐かしく温もりを感じさせるデザインのもが選ばれており、入居者が落ち着いて生活できるように配慮している。馴染みの物の持込みもお願いしており、位牌をはじめ思い出の品や使い慣れた道具等が置かれ、居心地よく過ごせる居室となっている。		